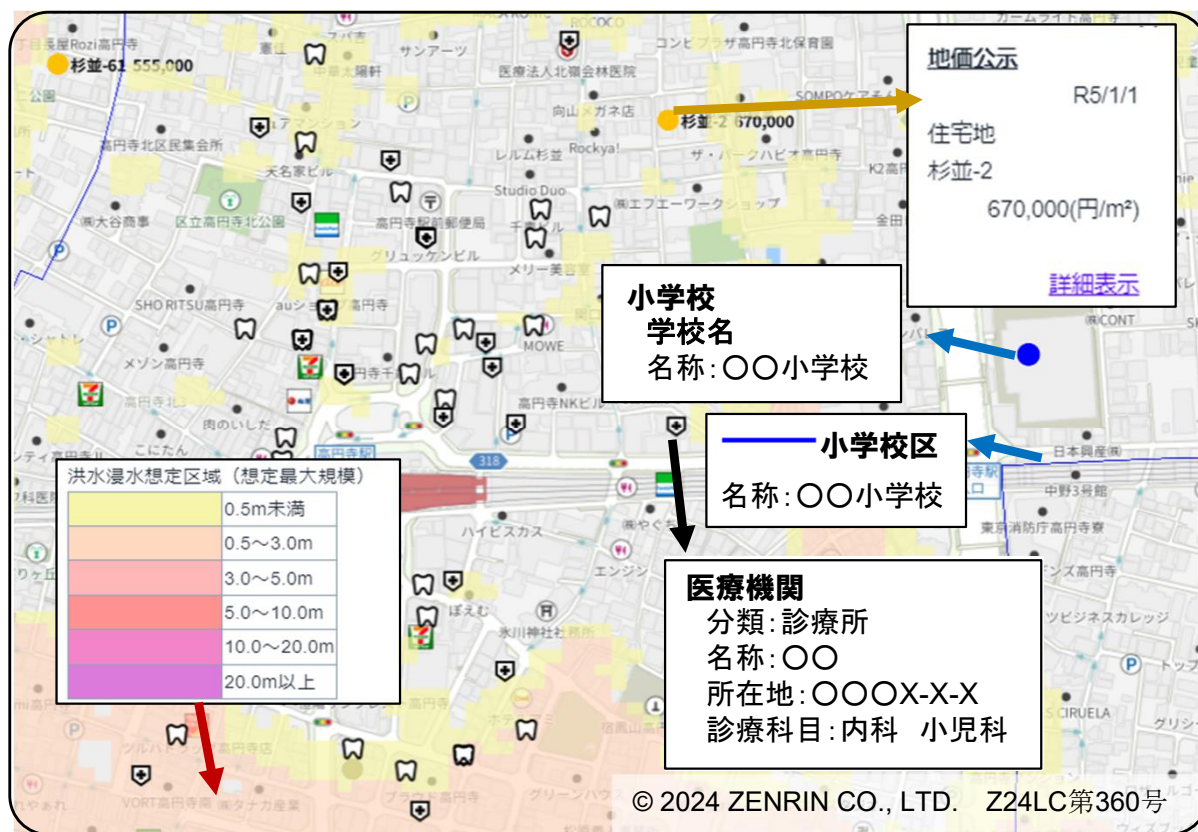


- ・円滑な不動産取引を促進する観点から、不動産に関するオープンデータを利用者のニーズに応じて地図上に表示する「不動産情報ライブラリ」を2024年4月1日に公開。
- ・利用にあたって特別なソフトを必要としないWebGISを採用し、スマートフォンでも閲覧可能。
- ・表示するデータについては、民間事業者等とのシステム連携（※）を可能としており、新たなサービスの基盤となることを期待。  
※API（Application Programming Interface）連携

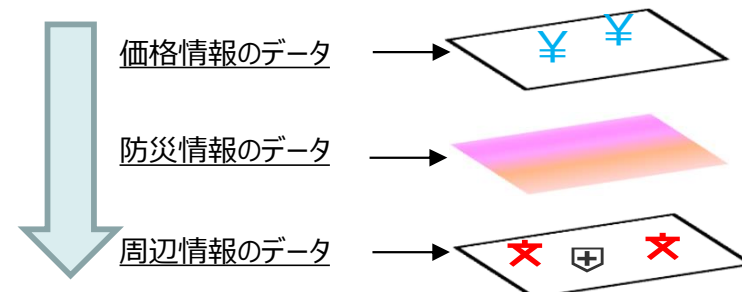
【不動産情報ライブラリ：画面イメージ】



## ライブラリの特徴

不動産取引に必要な複数のテーマを同じ地図上に重ね合わせることが可能。

オープンデータが様々なサイト・データ形式で公開されており、これらを重ね合わせて、同時に表示し、位置関係を把握できるシステムがない

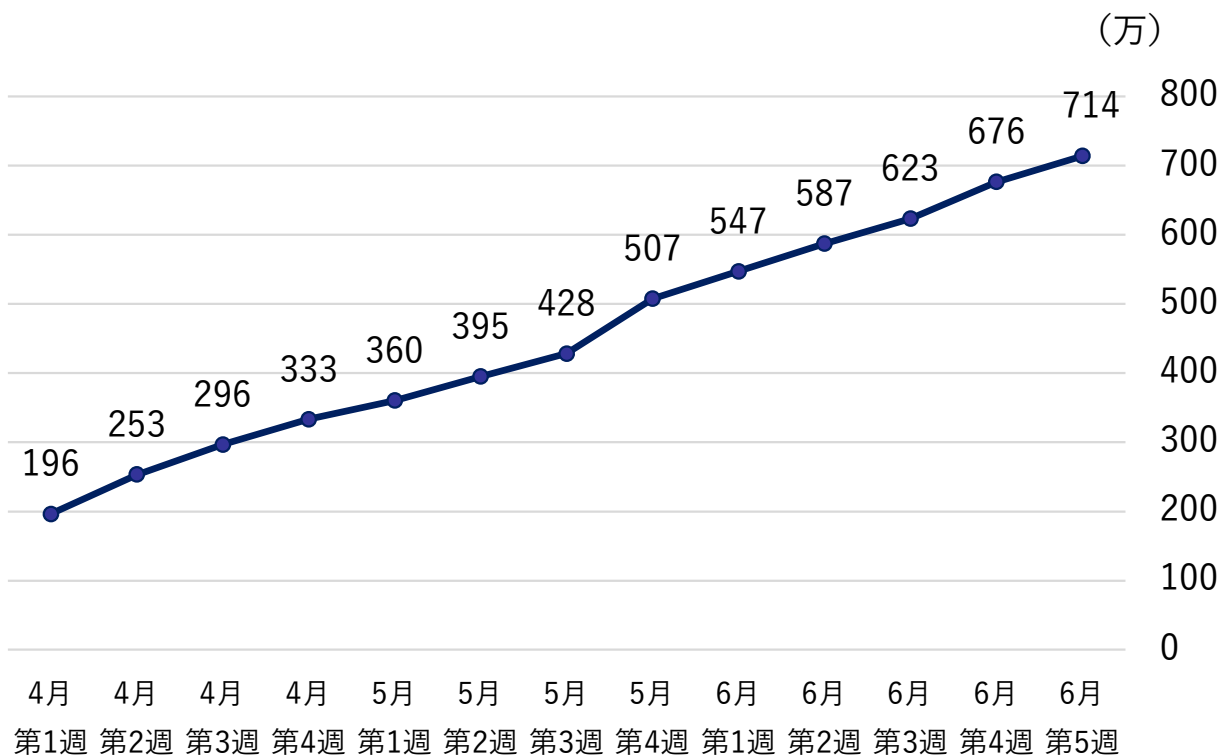


ライブラリによって、**複数のテーマの情報を重ね合わせて「見える化」**することができる。

例) 地価公示・地価調査、洪水浸水想定区域、周辺施設のデータを重ね合わせ

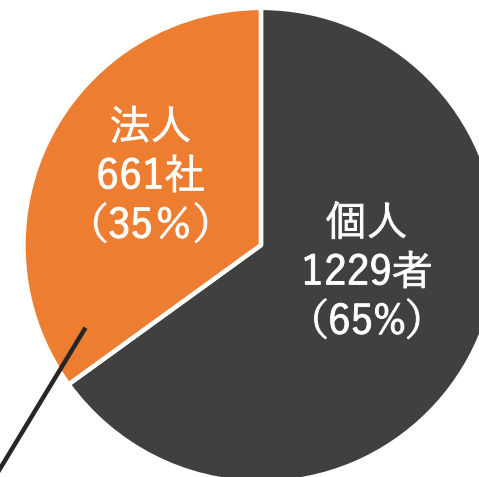
- ・運用開始から3ヶ月経過後の累計ページビュー数は710万以上であり、その3割以上がスマートフォンによる閲覧
- ・システム連携サービスの利用者も1800者を超え、不動産業以外の業態も多く利用

## 累計ページビュー数 (4/1~6/30)



6月30日 (17時時点) の累計PV 7,139,533回  
※うち、スマートフォンでの閲覧：35%、PCでの閲覧65%

## API利用申請者件数 (1890者)



### 不動産関係業種

：デベロッパー、ハウスメーカー、不動産テック、不動産鑑定、物件ポータルサイト など

### 不動産以外の業種

：保険、通信、マスコミ、運輸、など